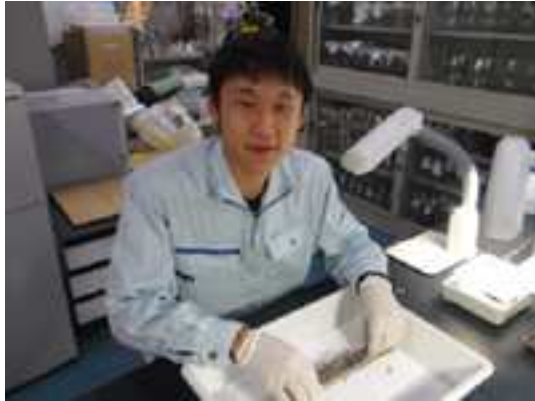




水産研究センターの ニューフェイスです！

■ 新人紹介

～ 資源研究部 ～



こんにちは。平成 23 年 5 月に資源研究部で嘱託職員として採用されました、城本祐助です。

私の担当業務は、DNA による親子判定技術を活用し、有明海のクルマエビとガザミの種苗放流の効果を調べることです。

この業務を進めるに際し、漁獲されたクルマエビ、ガザミを集めるために漁協や漁業者の皆さんの所にお伺いすることがあ

ると思いますので、その節はよろしくお願ひします。

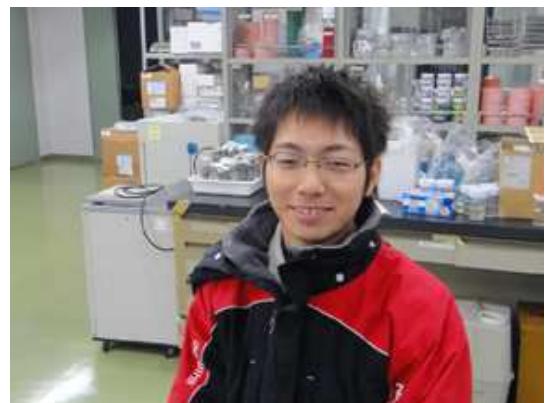
少しずつ仕事にも慣れてきましたが、まだ、試行錯誤の連続です。今後、有明海の再生に少しでも貢献できるように日々業務に努め、県魚であるクルマエビやガザミの漁獲量を増やすきっかけとなれば幸いです。

～ 養殖研究部 ～

9 月から熊本県の嘱託職員として養殖研究部の一員となりました小池祐介です。

私の担当する業務は実験用水槽の管理など試験研究補助で、現在はクマモトオイスター（シカメガキ）の飼育実験の補助などを行っています。

日々の業務を通して微力ながら熊本県の漁業の発展に貢献したいと思います。よろしくお願ひします。

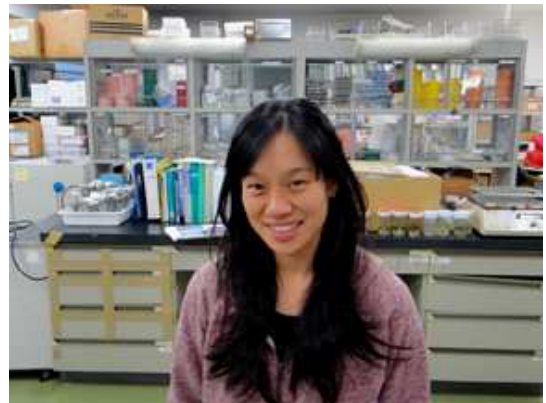




～ 海外研修員（ブラジル） ～

私は 赤木 アンドレイア タミ と申します。ブラジル・サンパウロ州・ソロカバ市から来ました。

私はサン・カルロス連邦大学の生物学部を卒業して、今は大学院の修士課程に在学しています。修士課程では海洋環境の研究をしています。私の研究課題はイルカと観光と養殖と漁業コミュニティの関係です。イルカは「Flagship species」です。



「Flagship species」は人間がかわいがる動物です。そんな動物は環境保護の意識を高めるのに使う事ができます。だから人間の干渉がイルカに与える影響を調べる事が大切です。

私が研究している場所はカルドゾ島州立公園です。そこでは、エビとカキが養殖されています。ブラジルのエビ養殖はホルモンを使うので、イルカの皮膚は敏感になって、病気になることがあります。だから時々海岸で死んだイルカが見つかります。ブラジルのエビ養殖はマングローブ林でします。マングローブ林でエビ養殖をするときホルモンや化学物質のせいでマングローブ林が壊れます。マングローブ林は魚が生まれる場所ですから、多くの生物に影響します。現在、ブラジルでは自然を守ることが必要とされていて、魚介類を養殖するときには自然を保護することに注意しなければなりません。私は熊本県水産研究センターでブラジルの自然を守るために化学物質を使わずにエビ養殖が出来る方法を、覚えたいと思って来ました。

2011年9月から熊本県水産研究センターでクルマエビの養殖試験を始めました。もうすぐ研修が終わりますが、今まで覚えたことはとても勉強になりました。エビの養殖方法を覚えることが出来ましたし、ほかの養殖方法も勉強することが出来ました。

水産研究センターの皆さんは私が全部覚えたいことはちゃんと説明していただき助かりました。また熊本県水産研究センターの皆様はとても優しくてお世話になりました。

ありがとうございました。

